

- 内閣官房長官兼拉致問題担当大臣の松野博一です。本日は、「北朝鮮人権侵害問題啓発週間・政府主催国際シンポジウム」への、御来場、オンラインでの御視聴、誠に有難うございます。
  
- 本日のシンポジウムには、国内外から、被害者御家族や、北朝鮮の人権問題等の専門家の皆様に御参加いただいています。コロナ禍の中、ビデオメッセージによる出演を含め、御参加いただく皆様に、この場を借りて改めて感謝申し上げます。
  
- 2002年に5人の拉致被害者が帰国されて以来、一人の拉致被害者の帰国も実現していません。一日千秋の思いで、帰国を待ち望んでいらっしゃる拉致被害者の方々、御家族の皆様に対して、私自身、非常に心苦しく、また、大変申し訳なく思っております。
  
- 一昨年には横田滋さん、有本嘉代子さんが、昨年には飯塚繁雄さんが、御家族との再会を果たすことなくお亡くなりになりました。

- 本日も、シンポジウムに先立ち、御家族の皆様と意見交換をさせていただきましたが、御家族の皆様と幾度とお会いする機会に、肉親との再会を待ちわびる痛切な思いを直接伺い、一刻の猶予もないとの切迫感をひしひしと感じております。
  
- 拉致問題は、岸田内閣の最重要課題であり、時間的制約のある人道問題です。日朝間に存在する不信感を打ち破り、拉致問題を解決し、双方にとって明るい未来を描くためには、我が国が主体的に動き、トップ同士で関係を構築するほかはありません。総理の指示の下、そのための環境整備に更に努力していく考えです。
  
- 同時に、国際的な支持や協力を得ることも極めて重要です。岸田総理は、各国首脳との会談の際には、拉致問題の即時解決に向けた支持を働きかけ、引き続き緊密に連携していくことなどを確認してきています。私自身も、外国の要人の方とお会いする機会には、拉致問題の即時解決に向けた理解と協力を直接求めております。
  
- 先月、国連総会第3委員会において、我が国が共同提案国となった北朝鮮人権状況決議が採択されました。18年連続18回目の採択であり、拉致問題について国際社会が強い懸念を有していることの表れと考えます。

- また、つい先ほど、日本時間本今朝、国連安保理において、北朝鮮の人権状況に関する協議が行われました。協議後には、我が国を含む、米、英、仏、韓国等の有志国が共同ステートメントを発出し、拉致問題の解決、特に、拉致被害者の即時帰国を強く要求しました。
  
- この後のパネルディスカッションでは、北朝鮮の人権状況の専門家であり、本年夏にそれぞれ新たに着任された、エリサベス・サルモン国連北朝鮮人権状況特別報告者、イ・シンファ韓国政府北朝鮮人権国際協力大使に御登壇いただき、グローバルな課題としての拉致問題の解決に向け、専門家の視座を議論いただく予定です。
  
- 拉致問題の解決には、日本国民が心を一つにして、全ての拉致被害者の一日も早い帰国実現への強い意思を示すことが重要です。特に、これまで拉致問題に触れる機会の少なかった若い世代への啓発活動が重要な課題であり、政府としてもこの点の取組を強化しています。
  
- 私自身、本年10月、埼玉県上尾市立東中学校において、拉致問題に係る授業を実際に視察し、授業を受けた生徒の皆さん、授業に取り組んでいる先生方との車座対話を行い、大変参考になりました。

- 本日も、このシンポジウムの前に、拉致問題の模擬授業に取り組み、将来教壇に立つ香川大学の学生の皆様と車座対話を行い、有意義な提言を頂いたところです。また、作文コンクールで入賞された中学生、高校生の皆さんが、力強い主張を発表してくれたことに、強い感銘を受けました。
  
- 本日のシンポジウムを通じて、皆様の声が更に広がり、より一層大きくなることは、拉致問題の解決に向けた力強い後押しとなります。引き続き、皆様の御支援と御協力を賜りながら、認定の有無にかかわらず全ての拉致被害者の一日も早い帰国実現に向けて、政府一丸で、全力で取り組んでまいります。御清聴有難うございました。

(了)